

恵みと真理のニュース



2013年6月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証] 若い時、主の御言葉を聴き愛し捧げる恵みと楽しみを与えてくださり感謝します。

前回に続いて

宣教期間中に宣教チームを導いた教役者は私に今までなぜ青年部で会えなかったのか聞かれました。そして、青年連合会にハウンド姉妹が必要です。と言われました。最初は見慣れないけど続けて来ると信仰も成長し教会生活も楽しくなりますよ。また、青年連合会に来て恵みを受けて下さい。ではなく、私が必要だということに最初は理解できませんでした。しかし、この誘いも私を呼ぶ神様の声で私を愛する神様の心だったことを後で悟るようになりました。神様はもっと恵みを与えてくださり私を尊く神様の国の働き者として用いてくださることでした。宣教を行って来てすぐ青年連合会で活動し始め

ました。最初は雰囲気になれなかったですが神様の導きだと思って足りない私を用いてくださる主に従順する信仰で礼拝と集まりに積極的に参加しました。時間が経って連合会の中の宣教部と宣教賛美団の文章チームで奉仕しながら今は主の名前で兄弟、姉妹を捧げ交際しながら奉仕するのがとても楽しくて幸せです。たまには大変な時もありますがその時も神様に祈ると大変さを克服するように知恵を与えてくださいます。また、助けるだけでなく心霊な教訓と悟りを与えてくださり、これを通して私の信仰が大きく成長するように導いてくださいます。

神様は今私に青年の時に恵まれる全ての豊かな祝福を心から受けあじわうようにします。神様は私をどれほど愛しどのように愛するか教会学校の教師と青年連合会の活動の捧げることを通して新しく体験させ感じるようにします。私に対する神様の計画と摂理を考える

と感謝する心しかありません。神様から受けた恵みと賜物でただ、神様に栄光を捧げキリストを敬います。また、主を喜ばせながら生きることをこの証を通してもう一回念を押します。世から得られる認定と褒めることでなく神様から認定され神様が喜ぶ娘になりたいです。

神様は小さいことに従順し喜びで奉仕する私に願った賜物も与えてくださり主のことにしても大きく用いられる楽しみを与えてくださいました。信仰で従順すると喜びを知るようになって今はどんなことがあっても、大変な時があっても心霊な喜びを奪われたくありません。小さいことでも神様から任されたことなら感謝しながら忠誠します。御言葉と聖霊で満たされ祝福の道に導いてくださる生きていらっしゃる天の父に全てを感謝と賛美で栄光を捧げます。ハレルヤ!



[信仰コラム] 真(しん)の信仰(しんこう)の基本(きほん)と核心(かくしん)

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。ヘブライ人への手紙 11:4~7」

本文(ほんぶん)の話(はなし)には信仰(しんこう)の基本(きほん)と核心(かくしん)が何(なに)かを示(しめ)した3人(にん)が記録(きろく)されています。アベルとエノクとノアです。

第(だい)一(いち)に、信仰(しんこう)の基本(きほん)と核心(かくしん)は贖罪(しょくざい)を信(しん)じることです。アベルは贖罪(しょくざい)の恩(おん)と真理(しんり)を信(しん)じて神(かみ)様(さま)に祭祀(さいし)を致(いた)しますので義理(ぎり)堅(がた)い人(ひと)とできる証拠(しょうこ)を得(え)ました。

エデンの園(その)で神(かみ)様(さま)の命令(めいれい)に背反(はいはん)して犯罪(はんざい)したアダムとハワに神(かみ)様(さま)は言葉(ことば)や行動(こうどう)を通(つう)じて贖罪(しょくざい)の恩(おん)と真理(しんり)を啓示(けいじ)しました。アダムとはカインとアベルを生(う)み、この重大(じゅうだい)な真理(しんり)を彼(かれ)らに教(おし)えたのです。アベルは神(かみ)様(さま)がおっしゃった拘束(こうそく)の真理(しんり)を信(しん)じてその信頼(しんらい)に供(そな)え物(もの)をしました。自分(じぶん)が罪人(ざいにん)であるという事実(じじつ)を知(し)って神(かみ)様(さま)が啓示(けいじ)した言葉(ことば)を信(しん)じて追従(ついじゅう)して贖罪(しょくざい)供(そな)え物(もの)をしました。しかし、カインはそのような信頼(しんらい)をなくして供(そな)え物(もの)をして神(かみ)様(さま)がカインとその餌食(えじき)は受(う)けない言(い)いました。カインは創造(そうぞう)主(しゅ)に対(たい)する観念(かんねん)はあったが、拘束(こうそく)の真理(しんり)に対(たい)する信頼(しんらい)がありませんでした。"イエス・キリストが人間(にんげん)の罪(つみ)を贖罪(しょくざい)いただくために世(よ)の中(なか)に来(き)て、十字(じゅうじ)架(か)を背負(せおい)られ死(し)んで復活(ふっかつ)した。彼(かれ)の流(なが)

した寶(だから)血(ち)で私(わたし)が拘束(こうそく)すぐ罪(ざい)許(ゆる)すことを受(う)けた。"ってことを信(しん)じることが真(しん)の信仰(しんこう)の最(もっと)も重要(じゅうよう)な基本(きほん)と核心(かくしん)です。

第(だい)二(に)に、信仰(しんこう)の基本(きほん)と核心(かくしん)の一(ひと)つは、神(かみ)様(さま)を喜(よろこ)ぶようにすることです。エノクは神(かみ)様(さま)を喜(よろこ)ぶ呼(よ)び立(た)てたという証拠(しょうこ)を受(う)けました。

エノクが神(かみ)様(さま)を喜(よろこ)ぶようにいった具体(ぐたい)的(てき)な内容(ないよう)をまとめて見(み)ると3つ(さん)です。彼(かれ)は神(かみ)様(さま)と同行(どうこう)して暮(く)らしました。彼(かれ)は神(かみ)様(さま)を探(さが)す者(しゃ)に神(かみ)様(さま)が賞(しょう)をいただくことを信(しん)じて暮(く)らしました。彼(かれ)は敬虔(けいけん)せず、剛愎(ごうぷく)な人(ひと)たちへ行(い)って将来(しょうらい)審判(しんぱん)と来(く)る神(かみ)様(さま)を反映(はんえい)して悔(く)い改(あらた)めを求(もと)めながら生(い)きたです。私(わたし)たちがとても忙(いそ)がしくてエノクのように住(す)むのは難(むずか)しいという言(い)い訳(わけ)の役割(やくわり)はできません。エノクは300年間(ねんかん)、子供(こども)を産(う)みながらそんなに暮(く)らしました。

第(だい)三(さん)に、信仰(しんこう)の基本(きほん)と核心(かくしん)は、神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)に徹底(てってい)的(てき)に追従(ついじゅう)して未来(みらい)に來(く)ることを備(そな)えることです。ノアはこの仕事(しごと)に完全(かんぜん)に模範(もはん)を見(み)せました。

アダムの子孫(しそん)たちは霊的(れいてき)な面(めん)で2グループに分(わ)かれました。人本(じんぽん)主義(しゅぎ)者(しゃ)で殺人(さつじん)者(しゃ)であるカインの子孫(しそん)たちと、神本主義(しゅぎ)者(しゃ)であり、敬虔(けいけん)な生活(せいかつ)をするセツの子孫(しそん)たちです。人(ひと)が次第(しだい)に盛(さか)んになり、敬虔(けいけん)なセツの子孫(しそん)たちが世俗(せぞく)的(てき)なカインの子孫(しそん)たちと婚姻(こんいん)をするので急速(きゅうそく)に人間(にんげん)の世(よ)は神(かみ)

様(さま)を逆(さか)らう人本(じんぽん)主義(しゅぎ)的(てき)社会(しゃかい)になっていきました。その心(こころ)を神(かみ)様(さま)におくことを嫌(きら)うだけでなく、被(ひ)造物(ぞうぶつ)を神(かみ)様(さま)のように仕(つか)える偶像(ぐうぞう)崇拜(すうはい)を追(お)い込(こ)むことになりました。人(ひと)の罪悪(ざいあく)が多(おほ)く、その心(こころ)に思(おも)う全(すべ)ての計画(けいかく)が常(つね)に悪(わる)くてました。神(かみ)様(さま)が世(よ)の中(なか)を審判(しんぱん)すると意図(いと)してノアに審判(しんぱん)計画(けいかく)をおっしゃいながら箱舟(はこぶね)を作(つく)るよう命令(めいれい)しました。ノアは経験(けいけん)と利害(りがい)を超越(ちょうえつ)して神(かみ)様(さま)の命令(めいれい)を遵(したが)う行(ぎょう)しました。大(だい)洪水(こうずい)を予想(よそう)させる何(なん)の兆候(ちょうこう)もなかったが、従順(じゆん)しました。人々(ひとびと)に神(かみ)の警告(けいこく)を受(う)け入(い)れ、箱舟(はこぶね)を建(た)てることに協力(きょうりょく)しとしました。彼(かれ)の言葉(ことば)に誰(だれ)も耳(みみ)を傾(かたむ)けませんでした。ノアは、長年(ながねん)の歳月(さいげつ)にわたって膨大(ぼうだい)な物資(ぶつし)を投入(とうにゅう)し、神(かみ)が指示(しじ)した通(どお)りに箱舟(はこぶね)を完成(かんせい)しました。箱舟(はこぶね)の中(なか)に入(はい)るところまで神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)をすべて遵(したが)う行(ぎょう)しました。ノアの家族(かぞく)がみんな箱舟(はこぶね)に入(はい)った後(あと)、7日(か)が過(す)ぎるといよいよ洪水(こうずい)が始(はじ)まりました。全(すべ)てが浸水(しんすい)し、神(かみ)の言葉(ことば)を信用(しんよう)して反対(はんたい)した者(もの)たちは、すべて水(みず)に溺(おぼ)れて死(し)にました。

皆(みんな)さんはアベルのように拘束(こうそく)信仰(しんこう)を持(も)って、エノクのように神(かみ)様(さま)を喜(よろこ)ぶ呼(よ)び立(た)てし、ノアのように神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)に従順(じゆん)して、近(ちか)づいてくる神(かみ)様(さま)の再臨(さいりん)と審判(しんぱん)を対(たい)比(ひ)しながら生(い)きように願(ねが)います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム '緑の牧場、清い川' 本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“すべてが終わった。” この叫ぶことは今から2千前エルサレム城の外ゴルゴタ丘で響いた極めてありがたい宣言です。その宣言に含みされている恵みはものすごいのですべて形言しにくい。イエスキリストが十字架の上で最後に叫んだ “すべてが終わった。” という言葉が何を宣言することなのかを詳らかによく見ます

第一は、“罪が完全に贖われた” という宣言です。

罪に対する人々の理解と対応方法はいろいろです。“罪の思いと言うのは社会生活で注入されたことであって元々罪というのではないのだ。”と主張する人々がいます。これは無理な主張です。人は獣と違って魂を持った存在で良心を持った存在で造られました。だから気がとがめて罪責感を持つようになります。ローマ書 5章12節に記録されるのを “このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。” 言いました。アダムの犯罪は全人類に影響を及ぼすようになりました。死亡は罪を犯したわけに与えられた刑罰です。毒薬が入ったびんに毒薬という文がなくてもそれを飲めば死にます。罪の存在を認めないとか自分は罪がないと主張すると言って罪の刑罰をまぬかれるようにはなりません。結局は滅亡に至るようになります。“たとえ人は神様の前で罪人だが修養して、道を研いで、善良な事をたくさん行えば神様の容赦を受けることができる。”と主張する人々がいます。人間の罪の問題は人間がどんな努力でも解決されません。自分の努力で解決しようとするのはまるで石炭を岩石に研いで白くしようと思うとか、水で洗ってきれいにさせようとする事に違いません。智徳がすぐれて世人の模範として崇尚を受けるに値する人であるおとなの教えに付いて崇拝すれば罪の束縛から脱するようになる主張する人々がいます。聖書に “義人はいない、ひとりもない”と言ったし “すべての人が罪を犯したので神様の光栄に至ることができない”と言いました。おとなだと呼ばれる者には普通の人々が模範とするに値することが多いということに過ぎません。彼もやっぱり神様の前で罪人です。滅亡の受けることは普通の人と同じです。罪から自由を得て救いを得る道はイエスキリストだけです。ローマ書 5章21節に記録されるのを “罪が死によって支配するに至ったように 恵みもまた義によって支配しわたしたちの主イエス・キリストにより永遠のいのちを得させるためである。” 言いました。神様が律法をくださった理由は人間が神様に対して犯罪者という事実を明らかに現わしてくれるためなのです。

すべてが終わった

律法は人を義のあるようにしてくれることはできないが救世主に向けて進むようにする役目をします。キリストが十字架に釘を打たれて血が流れてたまらないので彼を信じるすべての者が罪から救われることを受けて義のあるようになることは神様が決めたのです。このような罪の赦す恩寵に対して神様がアダムに啓示なさった以来で長年の歳月にかけて何回多くの模様に啓示なさいました。神様が決めた時にイエスキリストを世の中に送って私たちの罪を担当するようにして代わりに刑罰を受けるようにしました。ローマ書 8章にこんなに記録されました。“こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。”(ローマ書8:1、2) イエスキリストを信じれば罪からゆるしを受けて義のあるようになります。イエスキリスト中にいる者は定罪を受けません。罪がないからではなく神様から罪をゆるしを受けて義のあると判決を受けたからです。これに対しては人が日可日否することができません。これは神様が決めた法則です。キリストにあっては命の聖霊の法がはたらきするから罪と死亡の法が効力を及ぼすことができません。私たちの罪をあがなうために十字架に釘を打たれたキリストが十字架の上で “すべてが終わった。” と宣言しました。だからもうイエスキリストにあっては決して定罪することがないです

二番目は、“呪いが完全にあがなわれた” という宣言です。

ガラテヤ人への手紙で 3章 13節に “キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてののろわれる」と書いてある。” 言いました。アダムの犯罪によって人間に宣告された呪いをイエスキリストが担当して十字架の死にあがないました。律法の要求に対して全然無気力で呪いの下にある人生たちのためにキリストが律法の要求を満たすために親しく呪いを担当しました。そしてガラテヤ人への手紙で 3章14節には “それは、アブラハムの受けた祝福が、イエス・キリストにあって異邦人に及ぶためであり、約束された御霊を、わたしたちが信仰によって受けるためである。” 言いました。イエスキリストを信じる人にはアブラハムの福が及ぶようになると言いました。イエスキリストによる福音を信じる人は罪のゆるしを得る福を受けようになります。義のあるようになる福を受けます。永生を得る福を受けます。神様の子になる福を受けます。天国を企業で受ける福を受けます。聖霊様の臨みで神様とお供する福を受けます。復活の光栄に参加する福を受けます。人生を律法の呪いから脱するようにしてこのような福をくださるために神様がイエスキリストを世の中に送ったしキリストがあがないの死を死にました。実に大きな対価と犠牲が支払われました。このすべての福がキリストが十字架の上で “すべてが終わった。” と叫んだその宣言中に含まれたのです。イエスキリストにあっては律法の呪いで完全な自由を得ました。

三番目は、“死亡が完全に廃された” という宣言です。

ヘブル人への手紙2章 14節と15節に記録されるのを “このように、子たちは血と肉と共にあずかっている、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを解き放つためである。” しました。神様のイエスキリストが人の身を持って世の中へいらっしやって十字架にかけられる事と死ななければならない理由を説明しています。イエスキリストの死ぬことと復活は死亡の勢力を取った者魔鬼の権勢を廃するためです。聖徒たちを死亡の恐怖で解放させるためだと言いました。罪は全人類の上に支配力を持って死亡に至るようにします。一方にイエスキリストによる恵みは彼を信じるすべての者を永生に至るようにします。永生は永遠に暮すという意味以上です。天国で永遠に暮すことを意味します。そして将来復活した身を持って永遠に暮すことを意味します。復活は私たちの身が変化されるのです。アダムの犯罪によって 死亡が宣告されました。ところでうれしい消息があります。私たちの主イエスキリストが天からまたいらっしやる日復活されて変化されるという消息です。キリストにあって死亡者がまた生き返って生きている人も変化されるという消息です。聖書にはその時の場面を想像の中で目に浮かぶように描いて見られるように記録しておきました。復活した身の姿と状態に関しても明らかに啓示しました。コリント1で 15章に詳らかに描いています。復活した身は自分の正体性においては連続性を持ちます。他人の身ではなく聖徒たち各自の身です。しかし “身の存在様式” においては連続性を持たないです。復活した身は不思議で驚くべきに変化された身です。啓示された言葉を通じて復活した身の実際に対して整理して見ればこのようです。腐らない身です。強い身です。栄え栄えしい身です。神霊な身です。天に属した者の形象を着ます。死にません。キリストが再臨なされば聖徒たちの復活と変化は極めて早い瞬間に起きるようになります。“ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらせられ、わたしたちは変えられるのである。” (コリント人への第一の手紙15:51,52) しました。イエスキリストを信じて生まれかわった人は死を置いて所望ない他のこのように悲しむとか気落ちしなないです。この驚くべきな恵みが “すべてが終わった。” というイエスキリストの宣言の中に含まれています。ただ私たちがまだこの世の中に肉身で暮している間には罪の誘惑と呪いというある世の中で起こることと肉身の死ですっかり解放されたのではないです。しかしイエスキリストが再臨なさればイエスキリストがあがないによって恵みを完全に享受するようになるでしょう。“すべてが終わった。” という宣言が意味するすべてのものを享受するようになるでしょう。聖徒 皆さんはこの世の中で暮らすうちにどんな問題に会ってもイエスキリストが “すべてが終わった。” と叫んだ宣言の意味を吟味しながら喜びと期待感と胆大に生きて行くようお願いいたします。